

防災教育VR



指導案

学校編

◆教室	01
◆図書室	03
◆昇降口	05

通学路編

◆住宅街	07
◆商店街	09
◆湾岸エリア(小学校高学年・中学生用)	11
◆湾岸エリア(小学校低学年・中学年用)	13

自宅編

◆キッチン	15
◆リビング	17
◆子ども部屋	19



1 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 蛍光灯や時計等の落下してくる物や、ロッカーや本棚等の倒れてくる物があることを予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 机の下に入り、手で机の脚をつかんで頭を中心に身を守る。
○ だんごむしポーズ（身を丸めて両手で頭を守る）や、身の回りのもので頭を守る体勢をとる。
○ 放送の指示や「お・か・し・も」を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の教室内の落下しそうな物や倒れそうな物、割れそうな物がないかを点検する。
○ 落下しそうな物は高いところに置くことを避ける。
○ 倒れると想定されるものを固定しておく。 |

2 学びのポイント

場面	教室での動き	対象となる物	学びのポイント（危険な点や避難行動等）
教室	上から物が落ちてくる	蛍光灯、時計	○ 机の下に入り、手で机の脚をつかんで身を守る。 ○ 身を隠すところがない場合は、身近にあるカバン・本等で頭を覆い、だんごむしポーズなど出来るだけ低い姿勢をとる。 ○ 本は、本棚の上の方にある本から落ちる。
		窓ガラス	○ 教室は、構造上前後（黒板と後方）に揺れることが多い。よって、窓枠が斜めにゆがみ、窓ガラスが割れやすくなる。
	物が倒れる	ロッカー、棚の荷物、掃除箱	○ 机の下に入り、手で机の脚をつかんで身を守る。 ○ だんごむしポーズをし、カバンや両手で頭を守る。
	転倒しにくい	テレビ台	○ 滑車をロックしたり、下に重い棚があったりすると動きにくい。 ○ 転倒防止装置がしてあると倒れにくい。
	避難するとき	校内放送	○ 校内放送の指示に従い行動する。 ○ 避難する場合は「お・か・し・も」を守る。

3 VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類（アテンションマーク有り・無し）。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

4 授業展開（45分） ※中学生は「学習活動と内容 5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の教室の場面（静止画）を見せて課題を投げかける。 「ここはある教室です。この後、画面に見えている教室で震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。この教室は一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんと予測してください。そして、この教室にいる2人の命を守るためにどうやって身を守ればよいかアドバイスしてあげてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面（静止）で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 教室のVR動画は「私（教室にいる人物）」の視点であることが理解できるように、課題を投げかける言葉は子どもの発達段階に応じてわかりやすく変えていくとよい。

17分	2. 教室の中が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 教室内の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで教室内の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある教室内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートをA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。
10分	3. 教室で大地震が起きた時の様子(VR動画)を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ VR動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。※その際に、VR動画では窓ガラスが割れていなくとも、大地震が起きたときには教室のどの窓ガラスも割れる可能性があることは伝えるようにする。 ○ グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。
5分	4. 予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、教室にいる2人へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。なお、机の脚をつかむ方法については各学校の指導に合わせて説明する。(時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。)
5分 (10分)	5. 現在、自分たちがいる教室に大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのような対策を講じるかを考える。	○ 教室内の危険な箇所について、なぜ危険なのかを書いた付箋を直接そこに赴いてグループごと貼らせる方法もある。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導(15分間)で使用する場合は授業の流れ

- (1) VR動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの教室の状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) VR動画の大地震が起きた動画を見て、教室のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
- (3) 大地震が起きた場合、自分の教室の危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
※VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。
- 教室での「身の守り方」については、実際に机の下に潜らせる避難行動を行い、机の脚の持ち方等を指導するとよい。

【主に中学年】

- 教室内の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。(例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」)

【主に高学年・中学生】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それをを用いて、全体で意見を共有する方法もある。
- 教室内の危険な箇所についてタブレットで写真や動画を撮影し、コメントを入れて、教室内で大地震が起きたときに身を守る方法について動画作品を作らせるという発展学習につなげる方法もある。

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 本や蛍光灯、時計等の落下してくる物や新聞台やキャスター等の倒れてくる物を予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 机の下に入り、手で机の脚をつかんで頭を中心に身を守る。
○ 机に入れない場合は、本等の身近なもので頭を覆ったりだんごむしポーズをとったりする等して身を守る。
○ 放送の指示や「お・か・し・も」を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 図書室内の落下しそうな物や倒れそうな物がないかを点検する。
○ 自校で大地震が起きた場合、図書室内のどの場所が安全か確認する。 |

② 学びのポイント

場面	教室内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
図書室	上から物が落ちてくる	蛍光灯	○ 机の下に入り、手で机の脚をつかんで身を守る。 ○ 身を隠すところがない場合は、身近にあるカバン・本等で頭を覆い、だんごむしポーズなど出来るだけ低い姿勢をとる。 ○ 本は、本棚の上の方にある本から落ちる。
	本が落ちてくる	本棚にある本	
	物が倒れる	新聞台、キャスター付き本棚	○ 長方側から倒れる。
	机から頭を出さない	少年	○ 頭や体は、しっかり机の下に入れ身を守る。
	手で頭を隠す	少女	○ 近くに本があれば、本で頭を守るのもよい
	割れても飛散しない	窓ガラス	○ カーテンがあるとガラスが飛散しにくい。
	転倒しない	本棚	○ しっかり固定されているため倒れない。
	避難するとき	校内放送	○ 校内放送の指示に従い行動する。「お・か・し・も」を守る。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の図書室の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここはある図書室です。この後、画面に見えている図書室で震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。この図書室は一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、この図書室にいる2人の命を守るためにどうやって身を守ればよいかアドバイスしてあげてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 図書室のVR動画は「私(図書室にいる人物)」の視点であることが理解できるように、課題を投げかける言葉は子どもの発達段階に応じてわかりやすく変えていくとよい。

17分	2.図書室の中が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 図書室内の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで図書内の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある図書室内の絵に危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートをA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。
10分	3.図書室で大地震が起きた時の様子(VR動画)を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ VR動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。※その際に、VR動画では窓ガラスが割れていなくとも、大地震が起きたときには図書室のどの窓ガラスも割れる可能性があることは伝えるようにする。 ○ 「学びのポイント」の内容を中心に、グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。
5分	4.予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、図書室にいる2人へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。(時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。)
5分 (10分)	5.現在、自分たちの学校の図書室に大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのように対策を講じるかを考える。	○ 危険な箇所を話し合わせるときに、自校の図書室の写真を用いるとよい。図書室を利用する機会に、改めて危険の確認をするよう呼びかけるとよい。なお、時間があれば図書室に実際に移動して学習を進めることも考えられる。 ○ 図書室内の危険な箇所について、なぜ危険なのかを書いた付箋を図書室の写真の上に貼ったり、直接そこに赴いてグループごとで貼っていったりする方法もある。
5分	6.授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導(15分間)で使用する場合の授業の流れ

- (1) VR動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの図書室の状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) VR動画の大地震が起きた動画を見て、図書室のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
- (3) 大地震が起きた場合、自分たちの学校の図書室の危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
※VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。
- 手元にある教科書などの本を開いて頭を覆うことも実際に体験してみるとよい。

【主に中学年】

- 図書室内の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。(例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」)

【主に高学年・中学生】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それをを用いて、全体で意見を共有する方法もある。
- 図書室内の危険な箇所についてタブレットで写真や動画を撮影しコメントを入れて、図書室内で大地震が起きたときに身を守る方法について動画作品を作らせるという発展学習につなげる方法もある。

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 蛍光灯や額等の物が上から落下する、ガラスが割れる等の危険があることを予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ だんごむしポーズ(身を丸めて両手で頭を守る)や、身の回りのもので頭を守る体勢をとる。
○ 上履きのまま外へ避難する(靴を脱ぎない)。
○ 放送の指示や「お・か・し・も」を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の学校の昇降口に、落下しそうな物や倒れそうな物がないかを点検する。
○ 自校で大地震が起きた場合、昇降口内のどの場所が安全か確認する。 |

② 学びのポイント

場面	教室内の動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
昇降口	上から物が落ちてくる	靴箱の上にある額、 蛍光灯、上履き	○ 身を隠すところがない場合は、身近にあるカバン・本等で頭を覆い、だんごむしポーズなど出来るだけ低い姿勢をとる。
		窓ガラス	○ この場面設定では、建物の構造上出口に対して横に揺れることになる。よって、窓枠が斜めにゆがみ、窓ガラスが割れやすくなる。 だんごむしポーズをし、カバンや両手で頭を守る。
	迅速な避難	自分の靴	○ 頭を守り、上履きのまま避難する。
	転倒しない	下駄箱	○ しっかり固定されているため倒れない。
	避難するとき	校内放送	○ 校内放送の指示に従い行動する。 ○ 「お・か・し・も」を守る。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の昇降口の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここはある学校の昇降口です。この後、画面に見えている昇降口で震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。この昇降口は一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、この昇降口にいる2人の命を守るためにどうやって身を守ればよいかアドバイスしてあげてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 昇降口のVR動画は「私(昇降口にいる人物)」の視点であることが理解できるように、課題を投げかける言葉は子どもの発達段階に応じてわかりやすく変えていくとよい。

17分	2. 昇降口が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 昇降口の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで昇降口の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある昇降口の絵に危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートを A3 に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。 ○ ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それをういて全体で意見を共有する方法もある。
10分	3. 昇降口で大地震が起きた時の様子 (V R 動画) を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ V R 動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ V R 動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ V R 動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。※その際に、V R 動画では窓ガラスが割れていなくとも、大地震が起きたときには昇降口のどの窓ガラスも割れる可能性があることは伝えるようにする。 ○ グループごとにタブレットで V R 動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。
5分	4. 予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、昇降口にいる 2 人へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。(時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。)
5分 (10分)	5. 自分たちの学校の昇降口に、大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのような対策を講じるかを考える。	○ 危険な箇所を話し合わせるときに、自校の昇降口の写真を用いるとよい。帰宅時など昇降口を利用する機会に、改めて危険の確認をするよう呼びかけるとよい。なお、時間があれば昇降口に実際に移動して学習を進めることも考えられる。 ○ 昇降口の危険な箇所について、なぜ危険なのかを書いた付箋を昇降口の写真の上に貼ったり、直接そこに赴いてグループことで貼っていったりする方法もある。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導 (15 分間) で使用する場合は授業の流れ

- (1) V R 動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの昇降口の状態を予測し、発表する。〔4 分〕
 - (2) V R 動画の大地震が起きた動画を見て、昇降口のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7 分〕
 - (3) 大地震が起きた場合、自分の学校の昇降口の危険箇所を点検し、対策を考える。〔4 分〕
- ※ V R 動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。
- 昇降口での「身の守り方」については、実際にだんごむしポーズの実演や指導を行うとよい。

【主に中学年】

- 昇降口の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。(例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」)

【主に高学年・中学生】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それをういて、全体で意見を共有する方法もある。
- 昇降口の危険な箇所についてタブレットで写真や動画を撮影し、コメントを入れて、昇降口で大地震が起きたときに身を守る方法について動画作品を作らせるという発展学習につなげる方法もある。



① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|---|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 瓦やエアコンの室外機、庇等の落下する物や、木造住宅やブロック塀等の倒壊する物があることを予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ だんごむしポーズ(身を丸めて両手で頭を守る)や、身の回りのもので頭を守る体勢をとる。
○ 倒れてきそうな物や上から落ちてくる物等の危険な物がないところを見つけ、ランドセル等を使い、頭を中心に身を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の通学路について、地震によって落下しそうな物や倒れそうな物がないかを点検する。
○ 瓦や古いブロック塀、古い家屋の近くを歩かないようにする。 |

② 学びのポイント

場面	エリア内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
住宅街	上から物が落ちてくる	瓦、エアコンの室外機、庇、アパートの手すり	○ だんごむしポーズをし、カバンや両手で頭を守る。 ○ 古い瓦は一気に落ちてくる可能性があるので近くを歩かない。
	物が倒れる	ブロック塀	○ 古いブロック塀は、倒れやすいので近くを歩かない。 ○ 上に鉄のフェンスがある新しいブロック塀だと比較的倒れにくい。
	家屋の倒壊	古い家屋	○ 全壊し、道を塞ぐ。 ○ 緊急車両が入って来られない可能性がある。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容 5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の住宅街の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「この後、この住宅街で震度6強というみなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。もしみなさんがこの住宅街にいたとしたら、一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、どうすれば自分の身を守ることを考える考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。

17分	2. 住宅街が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 住宅街の危険な箇所を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで住宅街の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある住宅地内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートをA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。
10分	3. 住宅街で大地震が起きた時の様子(VR動画)を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ VR動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。 ○ グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。※その際、VR動画では倒壊・転倒・落下していかなくとも、大地震が起きたときには、あらゆる物が倒壊・転倒・落下する可能性があることは伝えるようにする。
5分	4. 予測した内容と検討した内容をもとにして、どのように身を守るか、住宅街にいる主人公へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。(時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。)
5分 (10分)	5. 現在、自分たちが使っている住宅街のある通学路で大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのような対策を講じるかを考える。	○ 住宅街のある通学路の危険な箇所について、通学路の写真を用意して、なぜ危険なのかを書いた付箋をグループごとに貼らせる方法もある。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。 ○ 下校途中で大地震が起きた際に、自宅に戻るのか、避難所に行くのかといった地震後の避難行動について、家族と話し合っておくということを伝える。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導(15分間)で使用する場合の授業の流れ

- (1) VR動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの住宅街の状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) VR動画の大地震が起きた動画を見て、住宅街のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
- (3) 大地震が起きた場合に備え、住宅街のある通学路における危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
※VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。
- 通学路での「身の守り方」については、実際にランドセルなどを使って頭を守る避難行動を行い、身の守り方を指導するとよい。

【主に中学年】

- 通学路の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。(例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」)

【主に高学年以上】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体で意見を共有する方法もある。
- 通学路の危険な箇所についてタブレットで写真や動画を撮影し、コメントを入れて、通学路で大地震が起きたときに身を守る方法について映像作品を作らせるという発展学習につなげる方法もある。

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|---|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 自販機・自転車・床屋ポール等の倒れてくる物や看板等の上から落ちてくる物があること、窓ガラスが割れること等を予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 倒れてきそうな物や上から落ちてくる物、窓ガラス等の危険な物がないところを見つけ、ランドセルなどを使い、頭を中心に身を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の通学路について、地震によって落下しそうな物や倒れそうな物、窓ガラス等の危険な物がないかを点検する。 |

② 学びのポイント

場面	エリア内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
商店街	上から物が落ちてくる	窓ガラス、2Fの看板	○ 看板などが上から落ちてくる。
	物が倒れる	自動販売機、自立式看板、自転車、ポール	○ しっかりと地面に固定されていない自動販売機は転倒する。
	動かない	中華料理店ののぼり	○ 左右に大きく揺れるが、重心が低いので倒れない。
	割れても飛散しない	クリーニング店2Fのガラス	○ 網入りのガラスは、ヒビは入るが飛散しない。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の教室の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「この後、この商店街で震度6強というみなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。もしみなさんがこの商店街にいたとしたら、一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、どうすれば自分の身を守ることができるかを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。
17分	2. 商店街が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 商店街の危険な箇所を予測してワークシートに書き込む。 ○ グループで、個々の考えをもとに、グループで商店街内の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある商店街内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートをA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。

10分	3. 商店街で大地震が起きた時の様子（V R動画）を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ V R動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ V R動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ V R動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。 ○ グループごとにタブレットでV R動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。※その際、V R動画では倒壊・転倒・落下していなくとも、大地震が起きたときには、あらゆる物が倒壊・転倒・落下する可能性があることは伝えるようにする。
5分	4. 予測した内容と検討した内容をもとにして、どのように身を守るか、商店街にいる主人公へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。（時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。）
5分 (10分)	5. 現在、自分たちの通学路にある商店街について、大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのように対策を講じるかを考える。	○ 通学路にある商店街の危険な箇所について、通学路の写真を用意して、危険な場所やその理由を書いた付箋をグループごとに貼らせる方法もある。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。 ○ 下校途中で大地震が起きた際に、自宅に戻るのか、避難所に行くのかといった地震後の避難行動について、家族と話し合っておくといことを伝える。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導（15分間）で使用する場合の授業の流れ

- (1) V R動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの商店街の状態を予測し、発表する。〔4分〕
 - (2) V R動画の大地震が起きた動画を見て、商店街のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
 - (3) 大地震が起きた場合に備え、商店街のある通学路における危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
- ※ V R動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。
- 通学路での「身の守り方」については、実際にランドセルなどを使って頭を守る避難行動を行い、身の守り方を指導するとよい。

【主に中学年】

- 通学路の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。（例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」）

【主に高学年・中学生】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それをを用いて、全体で意見を共有する方法もある。
- 通学路の危険な箇所についてタブレットで写真や動画を撮影し、コメントを入れて、通学路で大地震が起きたときに身を守る方法について動画作品を作らせるという発展学習につなげる方法もある。

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 地震が起きてから徐々に歩道や車道に泥水が出てくる等、液状化現象が起きること等を予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 大地震後の液状化現象による生活への影響を考え、どのような備えが必要か考える。
○ 地震が発生した時には倒れてくる物や上から落ちてくる物がないところを見つけて、ランドセル等を使い、頭を中心に身を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の通学路について、地震によって落下しそうな物や倒れそうな物がないかを点検する。
○ 液状化現象によるインフラ等への影響に備えて準備すべき物を考える。 |

② 学びのポイント

場面	エリア内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
湾岸エリア	液状化	歩道	○ 歩道を敷き詰めているブロックの隙間から泥水が出てくることから、道が長期間通れなくなったり、水道管が破損したりする等、生活に支障が出ることが考えられる。そのために、日頃から非常食や水の蓄え等、生活用品の備蓄が必要である。
		マンホール	○ 歩道が沈んでマンホールが浮き出る。
		車道	○ 車道と歩道の間にあるし字側溝とアスファルトがすれ、隙間から泥水が出て車道を泥が覆いつくす。 ○ 緊急車両が入って来られない可能性がある。
		歩道橋	○ 歩道が沈んで基礎部分が見える。
	動かない	マンション	○ 耐震構造がしっかりしているので建物は倒壊しない。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容 4」のところで20分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「今、画面に見えている場所で震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。時間が経つにつれて、この場所の状況が変化する様子を見てください。この変化はここで暮らす人々の生活に不便な状況を生むことが考えられます。この場所で暮らす人たちが問題なく生活できるようなアドバイスを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。

7分	2.大地震が起きた時の様子（VR動画）を全体で視聴し、どのようにこの場所の状況が変化したかを確認する。 ○ 視聴する前に、どのようにこの場所が変化するかを尋ねる。 ○ 視聴した後に、どのような変化があったかを発表させ、それをもとにこの場所の状況の変化をVR動画とともに確認していく。	○ 動画視聴前に、この場所の状況の変化について予測を述べさせることにより、動画視聴への関心を高めるようにする。 ○ VR動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、液状化現象を中心とした状況の変化や道路等の危険な状態を確認する。（「液状化現象」という言葉を出して説明する）※その際、液状化現象は地盤の軟弱な場所にかかる現象であって、「湾岸エリア以外でも起こる場合がある」こと、かつ、「湾岸エリアの全ての場所で起こるわけではない」ことを伝えるようにする。
15分	3.液状化現象が起きた状況から、この場所で暮らす人たちにどのような不便な状況が生まれるかを予測する。 ○ ワークシートに個々に予測を書いた後、グループで話し合い、意見をまとめる。 ○ 各グループの意見を全体に向けて発表して、どのような不便な状況が生まれる可能性があるかをまとめる。	○ ワークシート（A4）にある予測した不便な状況を書き込むように指示する。 ○ グループごとに、A3の用紙やホワイトボード等意見を書き込みできる物を用意して、グループの意見の発表に使えるようにする。
15分 (20分)	4.予測した不便な状況に陥っても、人々の生活への悪影響が少なくなるような方法を考える。 ○ ワークシートに個々に考えを書いた後、グループで話し合い、意見をまとめる。 ○ 各グループの意見を発表して、生活への悪影響が少なくなる方法をまとめる。	○ 液状化現象により、道路や水、電気の寸断といったインフラ等に影響が出ることに備えて何を準備するべきかを考える。 ○ 子どもから考えが出にくい場合は、教師が「水や電気が寸断された時に何が必要か」等の問いかけを行い、子どもの考えを引き出すようにする。
5分	5.授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導（15分間）で使用する場合の授業の流れ

- (1) VR動画の動画を終わりまで見て、大地震が起きたときに液状化現象等、道路に様々な状況の変化が生まれることを確認する。〔4分〕
 - (2) 液状化現象が起きた場合、人々の生活にどのような悪影響を及ぼすかを確認する。〔6分〕
 - (3) 液状化現象等の悪影響に備えて、日頃からどのような準備をすればよいかを考える。〔5分〕
- ※VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に高学年以上】

- タブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体での意見を共有する方法もある。
- 大地震後に適切な避難行動がとれるように、『東京防災』に掲載されている「室内の備え」や「備蓄」を活用しながら、自宅での大地震への備えについて調べさせてもよい。

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/kurashi_2/01tokyobousai.pdf

※低学年・中学年用(液状化現象を扱う場合には高学年・中学生用指導案を使用する)

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地震が発生した時に倒れてくる物や上から落ちてくる物等について予測する。 ○ 地震が起きてから徐々に歩道や車道に泥水が出てくる等、液状化現象が起きることを知る。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 地震が発生した時には倒れてくる物や上から落ちてくる物がないところを見つけて、ランドセル等を使い、頭を中心に身を守る。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の通学路について、地震によって落下しそうな物や倒れそうな物がないかを点検する。 |

② 学びのポイント

場面	エリア内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
湾岸エリア	液状化	歩道	○ 歩道を敷き詰めているブロックの隙間から泥水が出てくることから、道が長期間通れなくなったり、水道管が破損したりする等、生活に支障が出ることが考えられる。そのために、日頃から非常食や水の蓄え等、生活用品の備蓄が必要である。
		マンホール	○ 歩道が沈んでマンホールが浮き出る。
		車道	○ 車道と歩道の間にあるＬ字側溝とアスファルトがすれ、隙間から泥水が出て車道を泥が覆いつくす。 ○ 緊急車両が入って来られない可能性がある。
		歩道橋	○ 歩道が沈んで基礎部分が見える。
	動かない	マンション	○ 耐震構造がしっかりしているので建物は倒壊しない。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分)

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の湾岸エリアの場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここは湾岸エリアと言って、海の近くの場所です。この後、画面に見えている場所で震度6強という、みなさんが出会ったことがないような大きな地震が起きます。この場所は一体どのような危ない状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんと予測してください。そして、あなたがもしこの場所にいたら、どうやって自分の身を守るかを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。

17分	2. 湾岸エリアが大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 湾岸エリアの危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで湾岸エリアの危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある湾岸エリアの絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループにはワークシートを A3 に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。 ○ ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体での意見の共有する方法もある。
10分	3. 湾岸エリアで大地震が起きた時の様子(V R動画)を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ V R動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ 一度見た後に全体で感想を尋ねるとともに、時間があれば動画をストップしながらもう一度動画を見て、危険である理由等を検討していくとよい。※その際、全ての歩道橋が倒壊するわけではないことや、建物のベランダからの落下物などがある可能性を伝えるようにする。 ○ 「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。なお、地震が起きてから時間が経って、液状化現象が起きて、道路が通れなくなり、日常生活に支障が出る場合があることを説明する。※その際、液状化現象は地盤の軟弱な場所にかかる現象であって、「湾岸エリア以外でも起こる場合がある」こと、かつ、「湾岸エリアの全ての場所で起こるわけではない」ことを伝えるようにする。
5分 (10分)	4. 予測した内容をもとにして、もし自分がこの場所にいたらどのように身を守るかを考える。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物や倒壊物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。(時間があればグループで検討した後全体で話し合う。)
5分 (10分)	5. 現在、自分たちの通学路に大地震が起きた時に危険な箇所はないかを話し合い、どのような対策を講じるかを考える。	○ 通学路の中で、今回の学習内容を生かすために、特に高い建物がある場所を意図的に取り上げて、どこが危険かを考えさせるとよい。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑥ 避難訓練の事前・事後指導(15分間)で使用する場合の授業の流れ

- (1) V R動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときの湾岸エリアの状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) V R動画の大地震が起きた動画を見て、湾岸エリアのどこが危険か、また、どのように身を守るを確認する。〔6分〕
- (3) 大地震が起きた場合、湾岸エリアのある通学路の危険箇所を点検し、対策を考える。〔5分〕
※ V R動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。

【主に中学年】

- 湾岸エリア内の危険箇所に付箋を貼らせる場合に、危険な理由を書かせることが難しい場合には、付箋の色別に危険度合いを変える方法もある。(例：ピンク色の付箋紙が「とても危険」)

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|---|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ やかん、電子レンジ、包丁、ボウル、皿等の物が落下して熱湯や割れた皿が飛び散ったり、冷蔵庫等の大型の物が倒れて避難路を防いだりすることを予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 上から落ちてくる物から身を守るよう、近くにある物で頭を中心に身を守る。
○ ガス台には近づかない。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の家のキッチンの落下してきそうなものや転倒してきそうなものがないか点検する。
○ 物が飛び出したり、倒れたりすると想定されるものを固定しておく。 |

② 学びのポイント

場面	キッチン内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
キッチン	上から物が落ちてくる	やかん	○ 火が止まっても、やかんがガス台から落ち、熱湯が飛び散る危険性あり。 ○ ガス台は自動消火装置が付いているものが多いので、あわてて火を消そうとするのではなく、なるべくガス台から離れる。
		電子レンジ、包丁、ボウル	○ 転倒防止や飛び出し防止装置を付けていないと、電子レンジや棚の中の刃物など飛び出してしまう。
		皿	○ 床に落ちて割れ、破片が飛び散る。
	物が倒れる	冷蔵庫	○ 一度倒れると大きく重いため動かせず、避難路がふさがれる。
	火事にはならない	ガス台	○ ガスメーターの安全装置が作動し、ガスが止まる。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類（アテンションマーク有り・無し）。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前のキッチンの場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここはキッチンです。この後、画面に見えているキッチンで震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。もしみなさんがこのキッチンにいたとしたら、一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、どうすれば自分の身を守ることができるかを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。

17分	2. キッチンの中が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ キッチンの中の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループでキッチンの危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にあるキッチン内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループには絵を A3 に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。
10分	3. キッチンで大地震が起きた時の様子(VR動画)を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ VR映像の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっているので、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。 ○ グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。※その際、VR動画では転倒・落下していなくても、大地震が起きたときには、あらゆる物が転倒・落下する可能性があることは伝えるようにする。
5分	4. 予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、キッチンにいる私へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物や転倒物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。(時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。)
5分 (10分)	5. 現在、自分の家のキッチンに大地震が起きた時に危険な箇所はないかを考え、どのような対策を講じるかを考える。	○ 最初に、各自が自分の家のキッチンの危険な箇所や危険への対処方法を考え、時間があれば、他の子どもと意見交流を行う。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導(15分間)で使用する場合の授業の流れ

- (1) VR映像の最初の映像を見て、大地震が起きたときのキッチンの状態を予測し、発表する。〔4分〕
 - (2) VR映像の大地震が起きた映像を見て、キッチンのどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
 - (3) 大地震が起きた場合、自分の家のキッチンの危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
- ※VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。

【主に中学年】

- 自分の家のキッチンの見取り図を簡単に書かせて、どのように対策を講じるか書かせるとよい。
 - 大地震後に適切な避難行動がとれるように、『東京防災』に掲載されている「室内の備え」や「備蓄」を活用しながら、自宅での大地震への備えについて考えさせるとよい。
- https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/kurashi_2/01tokyobousai.pdf

【主に高学年以上】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体で意見を共有する方法もある。

① 授業のねらい

- | | |
|--------------------------------|---|
| (1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。 | ○ 時計、本等の落下する物やテレビ等の転倒する物があること、窓ガラスが割れてガラスが飛散すること等を予測する。 |
| (2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。 | ○ 上から落ちてくる物から身を守れるようテーブルの下に避難する。 |
| (3) 身の回りの地震対策について考えることができる。 | ○ 自分の家のリビングの落下してきそうなものや転倒してきそうなものがないか点検する。
○ 倒れると想定されるものを固定しておく。
○ カーテンを閉めておくと、窓ガラスが割れてもガラスが飛散しにくい。 |

② 学びのポイント

場面	リビング内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
リビング	上から物が落ちてくる	本、時計	○ 本は、本棚の上の方にある本から落ちる。
	物が倒れる	テレビ	○ 固定していないと前方または後方に倒れる。
	動かない	本棚	○ L字金具や家具ストッパーなど転倒防止措置が施された棚は倒れない。
	割れても飛散しない	窓ガラス	○ カーテンが開いているとガラスが飛散するが、閉めてあるところは飛散しない。

③ VR動画の使い方について

- VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前のリビングの場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここはリビングです。この後、画面に見えているリビングで震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。もしみなさんがこのリビングにいたら、一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんで予測してください。そして、どうすれば自分の身を守ることができるかを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。
17分	2. リビングの中が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ リビングの中の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループでリビングの危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にあるリビング内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループには絵をA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。

10分	3. リビングで大地震が起きた時の様子（VR動画）を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体 ○ VR動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっていて、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。 ○ グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを確認させる方法もある。※その際、VR動画では転倒・落下してはなくても、大地震が起きたときには、あらゆる物が転倒・落下する可能性があることは伝えるようにする。
5分	4. 予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、リビングにいる私へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物や転倒物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。（時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。）
5分 (10分)	5. 現在、自分の家のリビングに大地震が起きた時に危険な箇所はないかを考え、どのような対策を講じるかを考える。	○ 最初に、各自が自分の家のリビングの危険な箇所や危険への対処方を考え、時間があれば、他の子どもと意見交流を行う。 ○ リビングが家の中のどの場所を指すのか理解できない子どもがいる場合には家族が集まる場所と言い換える等の工夫を行う。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導（15分間）で使用する場合の授業の流れ

- (1) VR動画の最初の動画を見て、大地震が起きたときのリビングの状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) VR動画の大地震が起きた動画を見て、リビングのどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
- (3) 大地震が起きた場合、自分の家のリビングの危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
※ VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。

【主に中学年】

- 自分の家のリビングの見取り図を簡単に書かせて、どのように対策を講じるか書かせるとよい。
- 大地震後に適切な避難行動がとれるように、『東京防災』に掲載されている「室内の備え」や「備蓄」を活用しながら、自宅での大地震への備えについて考えさせるとよい。
https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/kurashi_2/01tokyobousai.pdf

【主に高学年以上】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体で意見を共有する方法もある。

① 授業のねらい

(1) 大地震における危険を予測する力を高めることができる。

- 時計、壁掛けボード等の落下する物や、カラーボックスやピアノの椅子等の転倒する物があることを予測する。
- 窓ガラスが割れてガラスが飛散すること等を予測する。

(2) 大地震から身を守る方法を考えることができる。

- 上から落ちてくる物から身を守れるよう机の下に避難する。

(3) 身の回りの地震対策について考えることができる。

- 自分の部屋の落下してきそうなものや転倒してきそうなものがないか点検する。
- 倒れると想定されるものを固定しておく。
- カーテンを閉めておくと、窓ガラスが割れてもガラスが飛散しにくい

② 学びのポイント

場面	子ども部屋内での動き	対象となる物	学びのポイント(危険な点や避難行動等)
子ども部屋	上から物が落ちてくる	時計、壁掛けボード、ハンガーポール	○ 枕元の近くにあると、寝ているときに頭に落ちてくる。
	割れても飛散しない	窓ガラス	○ カーテンが開いているとガラスが飛散するが、閉めてあるところは飛散しない。

③ VR動画の使い方について

○ VR動画は、360度で見渡せることができるものが2種類(アテンションマーク有り・無し)。アテンションマーク有りの動画を使用すると、地震により被害が起きる場所がわかりやすくなる。

④ 授業展開(45分) ※中学生は「学習活動と内容 5」のところで10分にして、計50分実施

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
3分	1. VR動画の地震前の子ども部屋の場面(静止画)を見せて課題を投げかける。 「ここは子ども部屋です。この後、画面に見えている子ども部屋で震度6強という、みなさんが体験したことがないような大きな地震が起きます。もしみなさんがこの子ども部屋にいたとしたら、一体どのような危険な状態になってしまうのでしょうか。ぜひみなさんと予測してください。そして、どうすれば自分の身を守ることができるかを考えてください。」	○ 最初に「バーチャル避難訓練」とテーマを掲げて、子どもの興味関心を高めるようにしてもよい。 ○ 地震が起きていない最初の画面(静止)で、360度を見渡して見せながら、「学びのポイント」の「対象となる物」の場所を確認していく。 ○ 課題を投げかける言葉については、子どもが理解しやすい言葉に変える等、子どもの発達段階に応じて変えていくとよい。
17分	2. 子ども部屋の中が大地震によりどのような危険な状態になるかを個々に予測し、グループで話し合う。 ○ 子ども部屋の中の危険な状態を予測してワークシートに書き込む。 ○ 個々の考えをもとに、グループで子ども部屋の危険な状態について検討し、その後、全体で話し合った内容を共有する。	○ 資料にある子ども部屋内の絵に予測した危険な状態を書き込むように指示する。(危険な箇所を○で囲むだけにしてもよい。) ○ グループには絵をA3に拡大した物を渡して、グループの意見を書き込むようにさせる。

10分	3. 子ども部屋で大地震が起きた時の様子（VR動画）を全体で視聴し、予測した状態との相違を全体で検討する。 ○ VR動画の危険な状態と予測した内容が合っていたかどうかを確認する。	○ VR動画は360度見渡すことができるようになっていて、前後に分ける等して全体を見ることができるよう視聴する。 ○ VR動画を一旦見た後に、再度途中ストップさせながら、「学びのポイント」の内容を中心に、危険な状態を確認する。 ○ グループごとにタブレットでVR動画を視聴させて、予測が合っていたかを検討させる方法もある。※その際、VR動画では転倒・落下していなくても、大地震が起きたときには、あらゆる物が転倒・落下する可能性があることは伝えるようにする。
5分	4. 予測した内容をもとにして、どのように身を守るか、子ども部屋にいる私へのアドバイスについて検討する。	○ 「学びのポイント」の内容を中心に、落下物や転倒物等の危険を考えながら、身の守り方を検討するように指示する。（時間があればグループで検討した後、全体で話し合う。）
5分 (10分)	5. 現在、自分の家の部屋に大地震が起きた時に危険な箇所はないかを考え、どのような対策を講じるかを考える。	○ 最初に、各自が自分の家の部屋の危険な箇所や危険への対処方法を考え、時間があれば、他の子どもと意見交流を行う。
5分	6. 授業の感想を書き、各自の感想を交流する。	○ 交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。

⑤ 避難訓練の事前・事後指導（15分間）で使用する場合は授業の流れ

- (1) VR動画の最初の映像を見て、大地震が起きたときの子ども部屋の状態を予測し、発表する。〔4分〕
- (2) VR動画の大地震が起きた映像を見て、子ども部屋のどこが危険か、また、どのように身を守るかを確認する。〔7分〕
- (3) 大地震が起きた場合、自宅の自分の部屋の危険箇所を点検し、対策を考える。〔4分〕
 ※ VR動画のアテンションマーク有りを使うと効率的に授業を進めやすい。

⑥ 学年別の指導の工夫について

【主に低学年】

- 児童の実態として、個人でワークシートを書く作業が難しい場合やグループでの話し合いが難しい場合は、課題を投げかけた後に子どもたちから意見を出させて、教員が板書して「危険なところ」や「身の守り方」について整理するとよい。

【主に中学年】

- 自分の部屋の見取り図を簡単に書かせて、どのように対策を講じるか書かせることよい。
- ・大地震後に適切な避難行動がとれるように、『東京防災』に掲載されている「室内の備え」や「備蓄」を活用しながら、自宅での大地震への備えについて考えさせるとよい。
https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/content/kurashi_2/01tokyobousai.pdf

【主に高学年以上】

- ワークシートの代わりにタブレット等の各自の端末を使用して各グループの意見を集約し、それを用いて、全体で意見を共有する方法もある。

防災教育VR



ワークシート

ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 がめん なか きょうしつ だいじしん お ばあい きけん じょうたい
画面の中の教室で、大地震が起きた場合、どのような危険な状態
よそく
になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お どうが み まも
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいか、
きょうしつ なか こ かんが
教室の中にいる子どもへのアドバイスを考えましょう。

3 じぶん きょうしつ だいじしん お ばあい きけん ところ
自分たちの教室で、大地震が起きた場合、危険になる所はどこか
かんが じしん たいさく かんが
を考え、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。



ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

1 が きょうしつ おお じ お きょうしつ
画めんにうつっている教室で、とても大きな地しんが起きました。この教室
はどのようなかんがになってしまうか考えましょう。

2 おお じ お まも おも
大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。
この教室のなかこおし
にいますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

3 じぶん がっこう きょうしつ おお じ お
自分たちの学校の教室で、とても大きな地しんが起きたとき、どこがきけん
になるとおもいますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か
今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている きょうしつで、とても おおきな じしんが おきました。この きょうしつは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。きょうしつの なかに いる こどもに おしえて あげて ください。

3 じぶんたちの きょうしつで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 がめん なか としよしつ だいじしん お ばあい きけん じょう
画面の中の図書室で、大地震が起きた場合、どのような危険な状
たい よそく
態になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お どうが み まも
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいか、
としよしつ なか こ かんが
図書室の中にいる子どもへのアドバイスを考えましょう。

3 じぶん がっこう としよしつ だいじしん お ばあい きけん ところ
自分たちの学校の図書室で、大地震が起きた場合、危険になる所
かんが じしん たいさく かんが
はどこかを考え、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

- 1 がめんにうつつている図書室で、とても大きな地しんが起きました。この図書室はどのようなになってしまうか考えましょう。

- 2 大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。この図書室の中にいる子どもに教えてあげてください。

- 3 自分たちの学校の図書室で、とても大きな地しんが起きたとき、どこがきけんになると思いますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

- 4 きょう がくしゅう かんそう か
今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている としよしつで、とても おおきな じしんが おきました。この としよしつは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。としよしつの なかに いる こどもに おしえて あげて ください。

3 じぶんたちの がっこうの としよしつで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 がめん なか しょうこうぐち だいじしん お ばあい きけん じょう
画面の中の昇降口で、大地震が起きた場合、どのような危険な状
たい よそく
態になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お どうが み まも
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいか、
しょうこうぐち なか こ かんが
昇降口の中にいる子どもへのアドバイスを考えましょう。

3 じぶん がっこう しょうこうぐち だいじしん お ばあい きけん ところ
自分たちの学校の昇降口で、大地震が起きた場合、危険になる所
かんが じしん たいさく かんが
はどこかを考え、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 が 画めんにうつっているしょうこうぐちで、とても大きな地しんが起きました。
このしょうこうぐちはどうのようになってしまいか考えましょう。

2 おお じ お 大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。
このしょうこうぐちのなかのこどもに教えてあげてください。

3 じぶん がっこう ぐち おお じ お 自分たちの学校のしょうこうぐちで、とても大きな地しんが起きたとき、どこ
がきけんになるとと思いますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か 今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている しょうこうぐちで、とても おおきな じしんが おきました。この しょうこうぐちは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。しょうこうぐちの なかに いる こどもに おしえて あげて ください。

3 じぶんたちの がっこうの しょうこうぐちで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



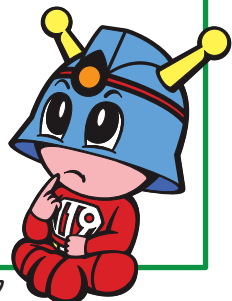
ねん 年
くみ 組
なまえ 名前

1 がめん なか じゅうたくがい だいじしん お ばあい きけん じょう
画面の中の住宅街で、大地震が起きた場合、どのような危険な状
たい よそく
態になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お どうが み まも かんが
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいのか考
えましょう。

3 じぶん つうがくろ じゅうたくがい だいじしん お ばあい きけん
自分たちの通学路にある住宅街で、大地震が起きた場合、危険に
なりそうな所はどこかを見つけ、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。



ねん 年
くみ 組
なまえ 名前

1 が じゅう ばしよ おお じ お
画めんにうつつている住たくがいがある場所で、とても大きな地しんが起き
ました。この住たくがいはどのようなになってしまうか考えましょう。

2 おお じ お まも おも
大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。

3 じぶん つうがくろ じゅう おお じ お
自分たちの通学路にある住たくがいで、とても大きな地しんが起きたとき、
どこがきけんになるとと思いますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か
今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている つうがくろで、とても おおきな じしんが おきました。この つうがくろは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 じぶんたちの がっこうの じゅうたくがたくさんある つうがくろで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 がめん なか しょうてんがい だいじしん お ばあい きけん じょう
画面の中の商店街で、大地震が起きた場合、どのような危険な状
たい よそく
態になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お どうが み まも かんが
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいのか考
えましょう。

3 じぶん つうがくろ しょうてんがい だいじしん お ばあい きけん
自分たちの通学路にある商店街で、大地震が起きた場合、危険に
なりそうな所はどこかを見つけ、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 が しょうてん ばしょ おお じ お
画めんにうつっている商店がいがある場所で、とても大きな地しんが起きま
した。この商店がい(しょうてん)はどのようなになってしまうか考えましょう。

2 おお じ お まも おも
大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。

3 じぶん つうがくろ しょうてん あつ おお じ
自分たちの通学路にある商店が集まっているところで、とても大きな地しん
が起きたとき、どこがきけんになると思いますか。その場合、どうしたらいい
と思いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か
今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている つうがくろで、とても おおきな じしんが おきました。この つうがくろは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 おみせやさんが たくさん あつまっている つうがくろで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

① だいじしん お どうが み がめん なか ば
大地震が起きたVR動画を見て、画面の中のマンションがある場
所がどのように様子が変わっていったかを書きましょう。

② ばしょ ひと ふべん じょうきよう お よ
この場所でくらす人たちに、どのような不便な状況が起きると予
測できますか。

③ ばしょ ひと ふべん じょうきよう う
この場所でくらす人たちに、「2」のような不便な状況が生まれる
可能性(かのうせい)があります。これに備えて(そな)、できるだけ日常生活(にちじょうせいかつ)に困ら
ない(たいさく)ようにするための対策(かんが)を考えましょう。

④ きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想(かんそう)を書きましょう。



ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

1 が 画めんにうつつているマンションがある場所で、とても大きな地しんが起き
ました。この場所はどのようになってしまいか考えましよう。

2 おお じ お 大きな地しんが起きているときに、あなたがこの場所にいたとしたら、どの
ようにみを守ればいいと思ひますか。

3 じぶん つうがくろ おお じ お 自分たちの通学路で、とても大きな地しんが起きたとき、どこがきけんにな
ると思ひますか。その場合どうしたらいいと思ひますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か 今日の学習の感想を書きましよう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている つうがくろで、とても おおきな じしんが おきました。この つうがくろは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 じぶんたちの がっこうの つうがくろで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。





ねん
年

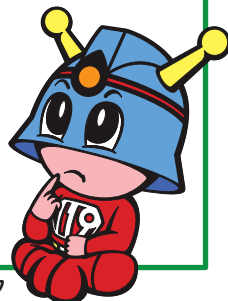
くみ なまえ
組 名前

1 がめん なか 画面の中のキッチンで、だいじしん お 大地震が起きた場合、ばあい どのような危険な
じょうたい 状態になるか予測してみましょう。

2 だいじしん お 大地震が起きたVR動画を見て、どうが どのように身を守ればいいのか考
み まも えましょう。

3 じぶん いえ だいどころ 自分の家の台所で、だいじしん お 大地震が起きた場合、ばあい 危険になる所はどこか
かんが じしん たいさく かんが を考え、地震への対策を考えましょう。

4 きょう じゅぎょう かんそう か 今日の授業の感想を書きましょう。





ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

1 が 画めんにうつっているキッチンで、とても大きな地しんが起きました。この
キッチンはどうのようになってしまいかかんがえましょう。

2 おお じ お 大きな地しんが起きているときに、どのようにみを守ればよいと思いますか。

3 じぶん いえ おお じ お 自分の家のキッチンで、とても大きな地しんが起きたとき、どこがきけんにな
るとおもいますか。その場合、どうしたらいいと思いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か 今日の学習の感想を書きましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている だいどころで、とても おおきな じしんが おきました。この だいどころは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 じぶんの いえの きっちゃんで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。





ねん
年

くみ なまえ
組 名前

① 画面の中のリビングで、大地震が起きた場合、どのような危険な状態になるか予測してみましょう。

② 大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいのか考えましょう。

③ 自分の家のリビングで、大地震が起きた場合、危険になる所はどこかを考え、地震への対策を考えましょう。

④ 今日の授業の感想を書きましょう。





ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

1 画めん^がにうつっているリビングで、とても大きな地しん^{おお じ}が起き^おきました。この
リビングはどのようなかんが^{かんが}になってしまうか考えましょう。

2 大きな地しん^{おお じ}が起き^おているときに、どのようにみ^{まも}を守ればい^{おも}いと思いますか。

3 自分^{じぶん}の家^{いえ}のリビングで、とても大きな地しん^{おお じ}が起き^おきたとき、どこがきけん^{おも}に
な^{おも}ると思いますか。その場合^{ばあい}、どうしたらいい^{おも}と思いますか。

4 今日^{きょう}の学習^{がくしゅう}の感想^{かんそう}を書^かきましょう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている りびんぐで、とても おおきな じしんが おきました。この りびんぐは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 じぶんの いえの りびんぐで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。



ねん
年

くみ なまえ
組 名前

① がめん なか こ べや だいじしん お ばあい きけん
画面の中の子ども部屋で、大地震が起きた場合、どのような危険
じょうたい よそく
な状態になるか予測してみましょう。

② だいじしん お どうが み まも かんが
大地震が起きたVR動画を見て、どのように身を守ればいいのか考
えましょう。

③ じぶん いえ こ べや だいじしん お ばあい きけん ところ
自分の家の子ども部屋で、大地震が起きた場合、危険になる所は
どこかを考え、地震への対策を考えましょう。

④ きょう じゅぎょう かんそう か
今日の授業の感想を書きましょう。





ねん
年

くみ なまえ
組 名前

1 が 画めん^こにうつっている子ども部屋^{べや}で、とても大きな地しん^{おお}が起き^じました。この子ども部屋^こはどのようになっ^{べや}てしま^{かんが}うか考え^{かんが}ましょう。

2 おお じ お 大きな地しん^{おお}が起き^じているときに、どのよう^{まも}にみを守^{おも}ればいいと思^{おも}いますか。

3 じぶん いえ こ べや おお じ お 自分の家^{じぶん}の子ども部屋^{いえ}で、とても大きな地しん^こが起き^{べや}たとき、どこがきけん^{おお}になると思^じいますか。その場合^お、どうしたらい^おいと思^{おも}いますか。

4 きょう がくしゅう かんそう か 今日の学^{きょう}習^{がくしゅう}の感^{かん}想^{そう}を書^かきましょ^うう。





ねん くみ なまえ

1 がめんに うつつている こどもべやで、とても おおきな じしんが おきました。この こどもべやは どのように なってしまうか かんがえましょう。

2 おおきな じしんが おきている ときに、どのように みを まもれば いいと おもいますか。

3 じぶんの いえの こどもべやで、とても おおきな じしんが おきたとき、どこが きけんになると おもいますか。そのときは どうしたら いいと おもいますか。

4 きょうの がくしゅうの かんそうを かきましよう。

